

2023 事故防止・経験交流集会 実施報告

教育遭難対策委員長 伊東春正（かがりび山の会）

教育遭難対策委員会主催で実施した事故防止・経験交流集会を報告します。

(1) 日程：2023 年 11 月 18 日（土） 10 時～16 時 30 分

(2) 場所：日本勤労者山岳連盟事務所

(3) 参加者：8 会から 18 名

（ふわくハイキングサークル、ちば山の会、かがりび山の会、船橋勤労者山の会、岳人あびこ、東葛山の会、千葉こまくさハイキングクラブ、松戸山の会）

(4) 実施内容

① 事故報告

今年度の事故は 8 件で昨年より減少しているが、転倒事故が 7 件と相変わらず多い。全国連盟の昨年の事故件数は過去最高であり、今年はそれをさらに上回りそうである。警察庁資料より、全国の登山人口は減少しているにもかかわらず、昨年の事故件数は過去最高だった。

② 事故事例報告

妙義山白雲山北東稜での滑落事故を事故当事者からの報告である。

10m 落下後、数 10m 滑落し、肋骨 15 箇所、背骨 3 箇所、脛骨 1 か所の骨折するも、一晚ビバーク後にヘリ救助されている。

同行者 2 名の冷静・沈着な対応が参考になる。

③ ファーストエイド講習

ちば山の会の国際山岳看護師より、山での外傷に関するファーストの特徴と対処方法およびセルフレスキューのための装備品の紹介があった。

④ フリー・ディスカッション

3 つのグループに分かれディスカッションを行った。

各会の山行計画書を持ち寄り、よりよい計画書を検討

計画書の 4 つの目的（山行メンバー間の情報共有、山行管理部門への情報提供、家族への通知、遭難時の手掛かり）に対する必要項目を検討した。

クライミング、沢登りのレベルアップ方法

今年、県連で行ったクライミング講習（入門編）は受講生 8 名から満足したとの感想が寄せられた。

次へのレベルアップを望んでいるが、県連ではなかなか対応できない。

東京都や埼玉県では、救助隊組織で訓練を通じて次世代を育てるシステムが回っている。

全国連の講師派遣制度は、一回であれば可能だが継続しての派遣は難しい。

などの意見があり、講師の育成が鍵である。

次世代会員の獲得と育成について

各会はHP、広報、お試し山行などで新会員を募っている。

HPには写真を多く載せると見てもらえる。

例会に参加し、オリエンテーションを行って会のことを知ってもらっている会もある。

(5)実施後の参加者の感想

- ・ 事故報告は、コロナ後の活動が戻り、事故が増加していることが良く分かりました。
- ・ 事件事例報告は、遭難してもきちんと記録を報告して、事故防止に役立てることはとても重要だと感じた。
- ・ ファーストエイド講習は、山での事故発生時の最新の対応方法を学ぶことができて大変参考になりました。
- ・ フリーディスカッションでは、クライミング・沢のぼりのレベルアップ方法について各会の実情が聞けて良かった。
- ・ 計画書の検討では、他の山の計画書と自分たちの計画書の違いを知ることができ、会に持ち帰って検討したいと思います。

など有意義であったとの意見が多く寄せられました。

もっと多くの参加が望まれるところです。



ファーストエイド講習



フリー・ディスカッション

以上